

一次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

自分たちの手で解決できないときはやり過ぐす。そして新しい時がくるのを待つ。村の暮らし方を知る前の私なら、このような対応のしかたは好まなかったことだろう。むしろ、困難に立ち向かっていく人々の姿のほうに、人間の美学を感じたかもしれない。しかしいつの間にか私も、そんな能動的な人間の対応が万能のものではないと思うようになった。

多分、かつての私の視野には、近代的な人間の世界しか入っていなかったのだろう。

この世界の基準では、能動的な働きかけと変革こそが善であった。A 近代とは、

経済がもたらす変化に対応して、すべてを変えつづけなければならない時代だったからである。自動車の出現も電話も、最近ではパソコンの浸透も、そして流通や小売の変化、さらに新しい兵器の登場も、私たちの世界を変えつづけた。B この変化

に対応できないことは、単なる遅れではすまされなかった。というのは新しく生まれてくる機械や兵器やシステムを一部の人々の管理にゆだねてしまえば、新たな支配やさまざまな暗黒を招きかねなかったからである。こうして人々はつねに能動的な対応と変革の意志をもたなければならなくなった。

C こうして山里に暮らしてみると、この論理だけがすべてではないと思うようになってくる。ここでは人々は自然に包みこまれるように暮らしている。その自然が機械が悪いときは、機械のなおる時を待っているのが一番よい。近代世界をつくりだしたヨーロッパでは、自然は人間によって管理されるものであったかもしれないが、この東アジアのモンスーン地帯ではそんなわけにはいかない。ここでは自然は「神」でさえあるのだから。ここには自然を「神」とみることを最良とするような自然と人間の関係があるのだから。山里で自然と人間が結んだ約束は、変革ではなく、自然と人間が永遠に無事な関係を維持していこうということである。そのためには、自然に逆らう生き方はよくない。

D 私も村人と同じように、天候フジンのつづく、この自然が不機嫌な年をやり過ぐそうとしていた。自然の機嫌がなおる時を待っていた。

といっても、それですむこととは村人は思っていなかった。自然が不機嫌な年なら過去にもある。しかし今回の不機嫌さは、かつてのものとは違う。積み重なった人間たちの身勝手な行為が、自然のバランス感覚を狂わしてしまったのが原因なのかも

- 1 -

しれない。だとするならこの異常気象は、かたちを変えながらもなお分つづくだろう。だから、この異変をやり過ぐそうと思っても、それではすまないかもしれないという不安が、村人の気持ちのなかにしのびこんでくる。

そんなとき村人は、やるせない気持ちをいだく。自然の機嫌をそこねた人間たちの身勝手な行為といっても、村人たちにそれほど責任のないことは確かだ。以前よりも少し森の手入れをしなくなった。少し畑を作らなくなった。自動車やさまざまな工業製品を以前よりは利用するようになった。自分たちにも、そのぐらいの責任はある。しかし基本的には、森や川や畑とともに暮らしてきただけだ。

だから自然の機嫌を取り戻そうとしても、村人には、さほどの手段もないのである。どう考えても、自分たちの手の届かないところで自然は機嫌をそこね、そうである以上自分たちは解決の方法をもっていない。

そして、そんなふうになると、村の戦後史がみえてくるのである。都市の拡大やエネルギー革命が村を過疎化させた。自分たちの手の届かないところで決定されていく農業政策が、村の農業をクキョウにおとし入れた。林業も同じようなカテイをへて衰退していった。何もかもが自分たちから遠い世界で決定され、村人にはつねに解決手段がなかった。そんな戦後史のソウケツサンのような出来事が、いま自分たちの目の前に展開している不機嫌な自然である。

森や川は、都市の人間にとっては大いなる自然であるが、村人にとっては自分たちの生活の中にある。こう述べる、森や川は村の人間にとっては利用する場所だと受け取られるかも知れない。もちろん村人は森を利用し、川を利用する。しかしそれは、村人と自然との関係の一部分にすぎない。根源にあるのは、森も川も自分たちと共に暮らす仲間だという感覚である。

仲間だから、結果的には利用し合っているときもある。ときには対立もする。お互いに助け合うこともある。そしていつでも一緒である。仲間の世界では裏切りが何よりも嫌われるように、自然を裏切る行為は村では嫌われる。ここにあるものは、助け合い、対立しながら、それでも仲間でありつづける自然と人間の関係である。

畑は生産の場所である。しかし、それ以上に村人は、畑の呼吸を感じながら、日々を暮らしている。生産のために畑をつくりながらも、畑とともに展開しているものは生産の論理だけではない。

地域は村では共同体である。いろいろな矛盾がありながらも、自然と人間の関係が

そうであるように、共同体もまた対立や助け合いを内包する仲間の世界である。

村では、ひとつの合理的な基準だけで、ものごとを判断してはいけない。

たとえば森は、一面では林業の場所である。林業をすすめるためには、スギやヒノキを植えて人工林化をはかった方が効率がいい。林業にとっては、人工林化は善である。ところがスギやヒノキの森では、キノコや山菜がなくなってしまう。つまり、人工林化は、自分たちの暮らしを支えているひとつの部分を消滅させるのである。この点では、人工林化は善とはいえなくなる。さらに森の変化は、各集落に引かれていく水道の水源の様子を変えてしまうことがある。しかも森はさまざまな動物や小動物、ときに神のやどる場所でもある。このこともまた村人は大事にしなければならぬ。なぜなら、それらが森で暮らせなくなると、村の人間の暮らしも次第に危機におちいつていくのだから。たくさん虫がいるから川の魚たちも育ち、クマが暮らせるような森だから、山にはクリやトチの実がみどり、キノコが生えてくる。

村では、ひとつの思考回路だけがすべてではないのである。一方の角度からみた善は、他方の角度からみれば悪にもなりうる。そのことを了解したうえで、判断をくだしていくのが村の精神である。

(内山 節『里の在処』より)

— 3 —

問一 — 線部 a ~ e のカタカナを漢字に改めなさい。

問二 — A ~ D にあてはまる言葉として最も適切なものを次から選び、

それぞれ記号で答えなさい。ただし、同じ記号は二度以上使えません。

- ア、しかも イ、つまり ウ、なぜなら
エ、だから オ、ところが

問三 — 線部 ア ~ オ のうち、他と性質が異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

問四 — 線部 1 「能動的な人間の対応」の本文中での意味として不適切なものを二つ選び、記号で答えなさい。

- ア、自ら問題解決に取り組む。
イ、自然にゆだねて変化を待つ。
ウ、積極的に事態の改善をはかる。
エ、新しい世界を求めて変革する。
オ、成り行きに任せ、困難に耐える。

問五 — 線部 2 「自然が機嫌が悪いとき」とは、どのようなときのことですか。十字以内で答えなさい。

問六 — 線部 3 「積み重なった人間たちの身勝手な行為が、自然のバランス感覚を狂わしてしまった」とありますが、具体的にはどのような行為ですか。三十字以内で答えなさい。

問七 — 線部 4 「村人たちにそれほど責任のないことは確かだ」といえるのはなぜですか。七十字以内で説明しなさい。

問八 — 線部 5 「一方の角度からみた善は、他方の角度からみれば悪にもなりうる」とありますが、それは森においてはどういうことですか。四十字以内で説明しなさい。

問九 本文の内容として正しくないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア、近代的な人間の世界の基準では、よりよい生活を求めた変革に価値があった。

イ、村人は、自動車や工業製品の利用が「不機嫌な自然」につながったと考えた。

ウ、村人は生産のためだけでなく、共に暮らすものとして畑をとらえている。

エ、ひとつの合理的な基準だけで自然を判断すると、自然を破壊することがある。

オ、自然を多面的にとらえ、共に暮らす仲間として尊重することが村の精神である。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権上の都合により文章の掲載はできません

著作権上の都合により文章の
掲載はできません

著作権上の都合により文章の
掲載はできません

著作権上の都合により文章の
掲載はできません

(阿部夏丸『泣けない魚たち』より)

*1 生けす…川などの水中に囲いを作り、捕まえた魚を生かしておく所。

*2 芭蕉……葉っぱは長さ二メートル近くにもなる植物。この場合は葉っぱのこと。

— 11 —

問一——線部1「お母さんが見えなくなるのを確かめ」たのはなぜですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、学校の行き帰りに川で遊んでいたことがばれてしまうと思ったから。
イ、自分を救った河童がこうすけだったことを秘密にしたかったから。
ウ、河童淵で溺れたことを、お母さんには絶対に言いたくなかったから。
エ、三日も眠らず看病してくれたお母さんを休ませてあげたかったから。
オ、どうせ信じてくれない河童の話をお母さんに聞かれたくなかったから。

問二——線部2「少し涙ぐんでいた」のはなぜですか。十五字以内でわかりやすく説明しなさい。

問三——線部3「少し困った顔」とありますが、先生を困らせたこととはどのようなことですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、岐阜に住むこうすけのおじいさんが退院したこと。
イ、こうすけにサツキマスのお話をしたのは先生であったこと。
ウ、こうすけが絶対にさとりと釣りをしたいと言っていたこと。
エ、さとの知らない間にこうすけが岐阜に帰ってしまったこと。
オ、おじいさんの面倒をこうすけが見るといつてきかないこと。

問四——線部4「あいつだって苦しんだはず」とありますが、何がこうすけにとって苦しいことだったのですか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、仲の良いさとりとに別れを切り出さなくてはならないこと。
イ、サツキマスを再び手に入れることができなかったこと。
ウ、退院後のおじいさんの世話をしなくてはならないこと。
エ、おばさんが退院したおじいさんのめんどうを見てくれないこと。
オ、さとりとの約束が絶対に果たせなくなったとわかったこと。

問五 — 線部5「心にぼかんと空いた穴」とはどういうことを指していますか。
十五字以内でわかりやすく答えなさい。

問六 — 線部6「ひよっとして手紙でも置いてあるかもしれない」とありますが、こうすけからの「手紙」とはどのようなものでしたか。三十五字以内でわかりやすく説明しなさい。

問七 に当てはまる言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、相対 イ、積極 ウ、対照 エ、自然 オ、魅力 カ、意識

問八 — 線部7「魚だって泣くよな」という言葉には、さとのどのどのような気持ちが含まれていますか。六十字以内でわかりやすく説明しなさい。